スイレン

東京清掃労働組合退職者会機関紙

清友

No. 59
2014年7月

東京清掃労働組合退職者会
〒102-0072　千代田区飯田橋3−9−3　SKプラザ4F
TEL 03（3237）9995　　FAX 03（3237）4541

暴走する安倍にNO！

戦争反対！解釈改憲阻止！
残業代ゼロ・労働法制改悪阻止！

6月20日、わずか数時間の国会審議で特定秘密保護法の運用をチェックする「情報監視審査会」の設置が強行採決されました。この審査会は政府の追認機関にすぎず、権限もありません。安倍政権の暴走ぶりは昨年12月の秘密保護法制定時より悪化しています。

そして、ついに集団的自衛権容認の閣議決定＝解釈改憲に至りました。連立から離れられない公明党は「歯止めをかけた」としていますが、「集団的安全保障」に踏み込むことを織り込み済みの自公合意は、今後際限なく拡大解釈されることを予兆しています。

安倍の外交政策ブレーンで安保法制懇のメンバーである元外務官僚・岡崎久彦は、テレビ朝日・報道ステーションのインタビューで「自衛隊は戦争する軍隊になる」と応えています。戦場で銃を持つのは私たちの孫です。安倍でも岡崎でも経団連会長でも高級官僚でもありません。

さらに安倍の暴走は労働者を無権利状態にたたき落とす方向で突き進んでいます。残業代ゼロ法案・永続的派遣・解雇自由などの労働法制改悪が目論まれています。企業が世界一活動しやすい国を目指すことは、労働者にとって世界一過酷な国になることを意味しています。

原発政策、社会福祉政策に対する安倍政権の姿勢も許せません。安倍の暴走を止めるため、戦争反対！　労働者の権利を守れ！　脱原発！の声を地域で街頭で響かせ、特に若者に伝えましょう。

6.12 戦争をさせない全国署名提出集会

介護保険制度発足の理念に逆行する
地域医療・介護総合確保推進法が成立

高齢者が地域で安心して暮らし続けるためには在宅ケア体制の強化が必要です。医療・介護総合確保推進法は、安心の地域・在宅ケアを確立することが目的だったはずです。

法案は問題だらけ

ところが法案は、①病床区分変更による入院医療の短縮化措置に伴い「患者難民」を増やすことにつながる、②介護の要支援者対象事業の市町村移行はサービスの地域格差と要支援者の切捨てにつながり、結果として重篤化をもたらす、③介護保険利用の自己負担率アップは保険利用の自粛→重篤化につながる、④特養入所条件の厳格化は貧困ビジネスに高齢者が食い物にされるなど、介護保険制度発足の理念に逆行するものです。

参議院厚生労働委員会で質問する
相原久美子議員と退職者連合の傍聴行動

自公政権が強行採決

自治退・地公退はこの問題点を指摘し、高齢者連合の中心部隊として衆参両院の国会審議の傍聴や議員要請などの取組みを進めました（自治退東京常任幹事として庄司事務局長が参加）。また、参院の公聴会では連合の古賀会長が自治退・地公退の考え方を踏まえて「サービスの地域間格差が拡大し、要支援者の切り捨てにつながりかねない」「19本の法案を束ねた審議は拙速だ。このように不十分な審議で見切り発車となれば将来に禍根を残す」と指摘しました。

しかし、数を背景とする安倍政権は、民主党など全野党が審議不足を訴えて慎重審議を求めたにも関わらず強行採決し、6月18日に法案は可決・成立してしまいました。

今後の取組みは…

法案は決まってしまいましたが、闘いはまだ続きます。

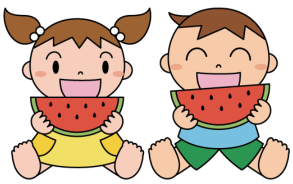
(1)市町村の事業とされた介護の要支援者対象事業の予防給付を少なくとも従来レベルで維持させること。

(2)在宅医療と介護の促進には人的措置が必要であり、介護保険労働者の雇用と労働条件改善の取組みが不可欠です。

これら取組みを通じて問題点を鮮明にし、制度改善につなげることが今後の課題です。

愚者一得

▼東京都議会でみんなの党・塩村文夏議員へ「お前が結婚しろ」「産めないのかよ」とのやじが飛んだ事件について、明治天皇の玄孫・竹田恒泰は「塩村さんは受け流す余裕を持って欲しい。」と。▼元航空幕僚長の田母神俊雄は「発言がどうして女性蔑視なのか。いいじゃないかそのくらい。」とコメントしました。▼女性差別やじの発言者鈴木章浩議員は尖閣列島上陸事件の一員です。▼これまでも数々の女性差別発言がありましたが、右寄りと言われる人たちの女性差別発言が目立ちます。「伝統的女性観」が共通項のようです。▼また、右寄りとされるマスコミも「涙のヒロイン・華麗なる履歴」（週刊文春）、「美人都議・白いスネの傷」（週刊新潮）等と報道し、その記事がセクハラであることに無自覚です。▼差別は人権侵害です。都議会は残る差別発言者を特定し、レッドカードを！



健康で自立した生活へ 自らを見つめ直す機会に

自治退都本部学習会

自治退都本部学習交流集会が6月5日～6日、箱根路開雲で開催され、柳副会長と小林事務局次長（庄司事務局長は都本部役員で）が参加しました。

自治労顧問医
上野満雄講師

主催者挨拶で本郷会長は、「超高齢社会の進行に反して安倍政権は年金・医療・介護など社会保障制度の改悪を押し進めており、断じて許せない。」「組織の面では、東交退職者会との統合について具体的な協議を進めている。」等と、現下の状況を報告しました。

学習会の講演は、上野満雄自治労顧問医による「高齢者の健康と生活問題～元気で充実した日々を過ごすため～」でした。約1時間半、事例を含め、ときにはユーモアをまじえてお話しされました。

超高齢者社会で増大する四大疾病（がん・心臓病・肺炎・脳血管疾患）を直視して正面から取り組み、健康的で充実した老後を送るため、①自らの運動能力は年相応か、②健康管理の取組みは適したものか、③日頃の食事バランスは取れているか、④適正な血圧管理＝定期的な測定をしているかなど、自身の体力と日常の生活の点検を行って把握し、日々自らの生活を振り返り、定期的に関係機関（医師など）と相談して健康で自立した生活を送れるよう努めることが必要だと強調されました。

自らを見直すことの重要さを認識する機会を得られ、大変有意義でした。今年の清掃退職者会の学習会は、「介護保険制度」をテーマにする予定ですが、健康問題も取り上げてみたいと思いました。

さくらんぼ狩りと温泉を楽しみ 他単会と交流を深めました

都庁退親睦交流会に参加して

6月9日に行われた都庁退親睦交流会に、庄司事務局長、馬鳥幹事、小泉英代さんが参加しました。

飯田橋を出発、目的地はさくらんぼ狩りの山梨県勝沼「しまむら農園」です。前日の雨で天候が心配でしたが、勝沼到着の頃には晴れて一安心。

さくらんぼを枝からとってほおばると、香りと甘さが渾然となって口一杯に広がります。至福の美味しさに参加したみなさんも大喜びでした。

その後、ぶどうの丘温泉「天空の湯」で、甲斐の山々をながめながら温泉を楽しみ、昼食交流会をもちました。

帰りに道の駅甲斐大和と笹一酒造に立ち寄り、見学とお買い物。本当に楽しい親睦交流会になりました。

安心総合共済で あんしん

加入申込みは 9月末まで

最近、何でもない処で転んだり、うっかり忘れ物をした経験がありませんか？　気を付けて事故にあわないようにすることが第一ですが、万一事故にあった場合の強い味方が「自治退・安心総合共済」です。事故によるケガ、携行品の破損や損害賠償等が対象で、毎年、加入者から「入っていてよかった」の声が上がっています。加入の相談は戸枝会計へ一報ください。

川内原発を再稼働させるな！

さようなら原発 首都大行進

5月21日、福井地裁は関西電力に対し大飯原発の運転差止めを命じました。「経済より人の命と健康を優先すべき」とする画期的な判決でした。

大きな「脱原発の世論」があるにも関わらず、安倍政権は民主党政権が打ち出した「原発ゼロ」を撤回し、エネルギー基本計画に原発再稼働を明記しました。また、何が何んでも原発を再稼働させようと、原子力規制委員会で厳しい指摘をしてきた地震学の島崎邦彦委員長代理を退任させ、「原子力村」の住民と交代させる人事を強行しました。

現在、鹿児島県の川内原発が再稼働されようとしています。噴火や火砕流の危険性が極めて高い地域に立地していながら、各自治体の避難計画が未整備な川内原発は絶対に稼働するべきではありません。

6月28日、「川内原発を再稼働させるな！さようなら原発首都大行進」が明治公園で開催されました。あいにくの雨でいつもより少なかったとはいえ約3千名が参加し、集会の後、青山・原宿をデモ行進して脱原発を訴えました。清掃退も5名参加、今後も脱原発運動には積極的に参加していきます。

次は狭山だ！

東京清掃が狭山事件現地調査

6月22日、東京清掃主催の狭山事件現地調査が行われ、日曜日にも関わらず38名参加。

冤罪・狭山事件で犯人にされた石川一雄さんは、自由と人間の尊厳を51年もの長きに亘り奪われてきました。現地調査は、犯行の自供に基づく石川さんの行動をたどって追体験し、自供通りの犯行が不可能なことを確かめました。

袴田事件等多くの冤罪が次々と明らかにされています。参加者一同「次は狭山だ」の想いを強くしました。

事前学習会で石川一雄さんと石川早智子さんのお話しを聞く

心境を披露する石川一雄さん

非正規差別に歯止めを

東京メトロの売店で働く非正規労働者の労働組合が、正規職員との差別解消の闘いを果敢にいどんでいます。

正社員と同じ仕事をしていても賃金は半分以下、退職金もなく、休暇も格差があるなどの差別に異議ありと、ストライキで闘い、非正規差別撤廃訴訟を起しています。

おばちゃんたちの闘いは、非正規労働者＝低賃金の構造に風穴を開けようというものです。ガンバレ！　応援するぞ！